



騒音

学校における騒音の影響



生徒

教員の声が聞き取れない
学習や思考に集中できない

教員

必要以上に大声を出すことで
作業効率の低下・疲労等

学校が地域周辺
への騒音源に
ならないように

騒音レベル

学校環境衛生管理マニュアル

【平成30年版】P67

定期検査

騒音 レベル

教室内の騒音レベル：

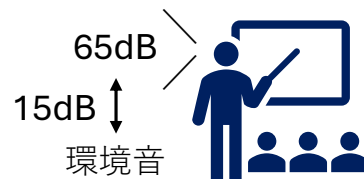
窓を閉じている時は LAeq 50 dB 以下

窓を開けている時は LAeq 55 dB 以下
であることが望ましい

回数：毎学年 2 回

基準値を著しく下回る場合、
次回からの検査は省略可能

閉窓, ≤ 45 dB;
開窓, ≤ 50 dB

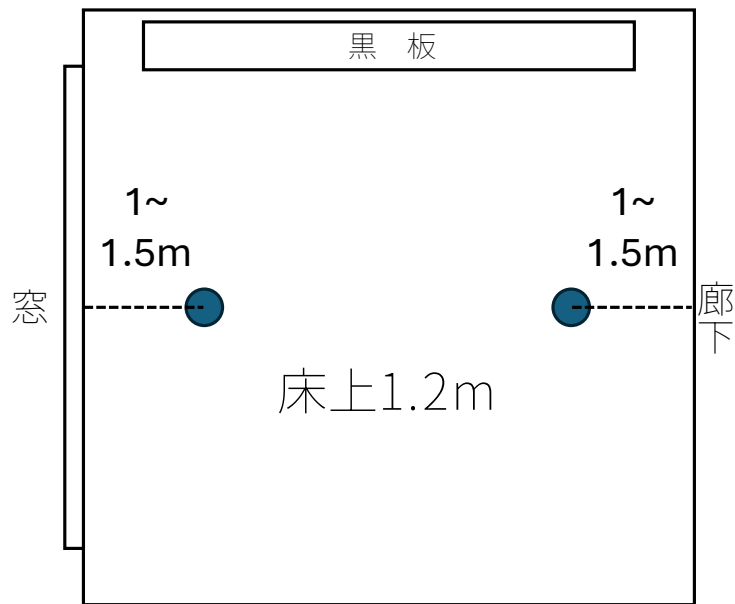


場所：

騒音の栄養が大きい教室

- ✓ 授業が行われる日
- ✓ 授業の時間帯
- ✓ 児童生徒がいない状態
- ✓ 教室の窓側と廊下側
- ✓ 開窓時と閉窓時

測定条件



教室が大きく、前後に差がある場合は、前後にも分けて測定

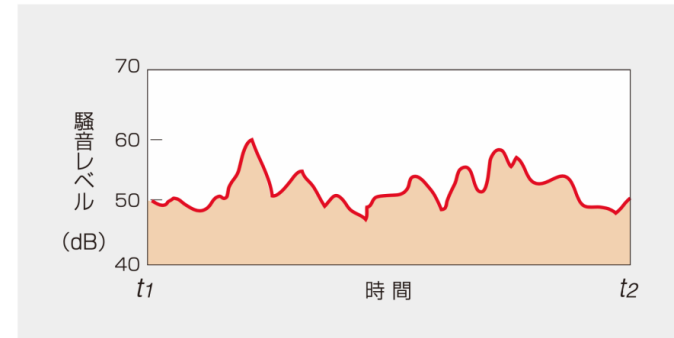


画像引用元) NL-27 学校保健カタログ (リオン株式会社)

測定条件

等価騒音レベル LA_{eq}

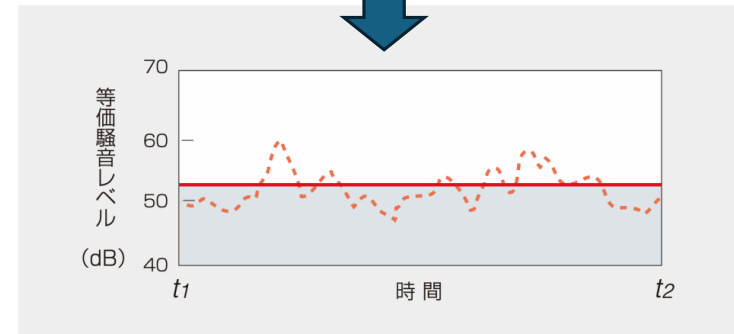
測定時間内の騒音の
エネルギーを平均して表す



時間 t_1 ~ t_2 の間に騒音レベルが47 dB~60 dBの範囲で変動しています。

A特性

耳で聞こえる感じに
似た感度で測定



騒音レベルのエネルギーを、定常騒音のエネルギーに置き換えると53 dBとなり、これが等価騒音レベルとなります。

画像引用元) NL-27 学校保健カタログ (リオン株式会社)

騒音の日常点検

学校環境衛生管理マニュアル
【平成30年版】P148

日常点検

騒音

学習指導のための教師の声等が
聞き取りにくいことがないこと

点検方法：
官能法
定期検査に準じた方法

音節明瞭度試験
をする方法もある

- ✓ 教室内に騒音がないか
- ✓ 教室内に騒音がある場合には、
 - どのような騒音が入ってくるのか
 - その回数はどのくらいか

生徒

- ✓ 騒音をどのように感じているか
- ✓ 聞き取りにくいことはないか
- ✓ 聞き取りにくい時は申し出るように

騒音の対策

1. 騒音の発生源を調べる

持続的？一時的？対策可能？

2. 対策

窓を閉める

-10 dB

注意点：換気

塀？

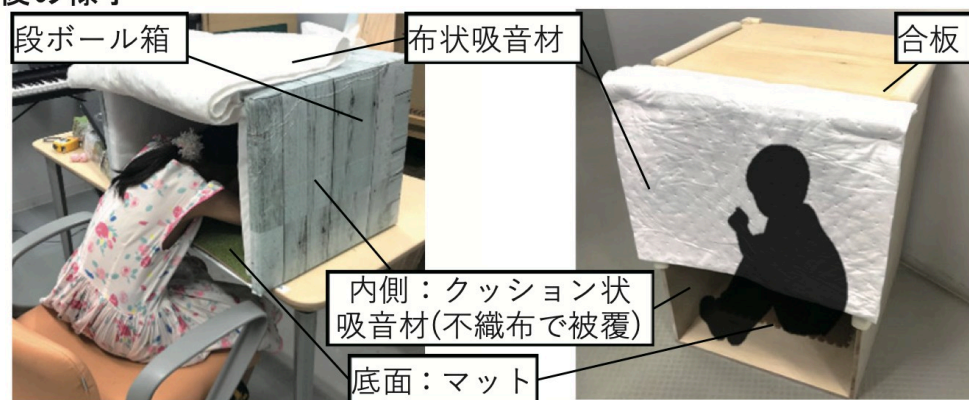
吸音材

3. 生徒への配慮

聴覚過敏
発声に困難さがある
補聴器



図8 吸音材設置後の様子

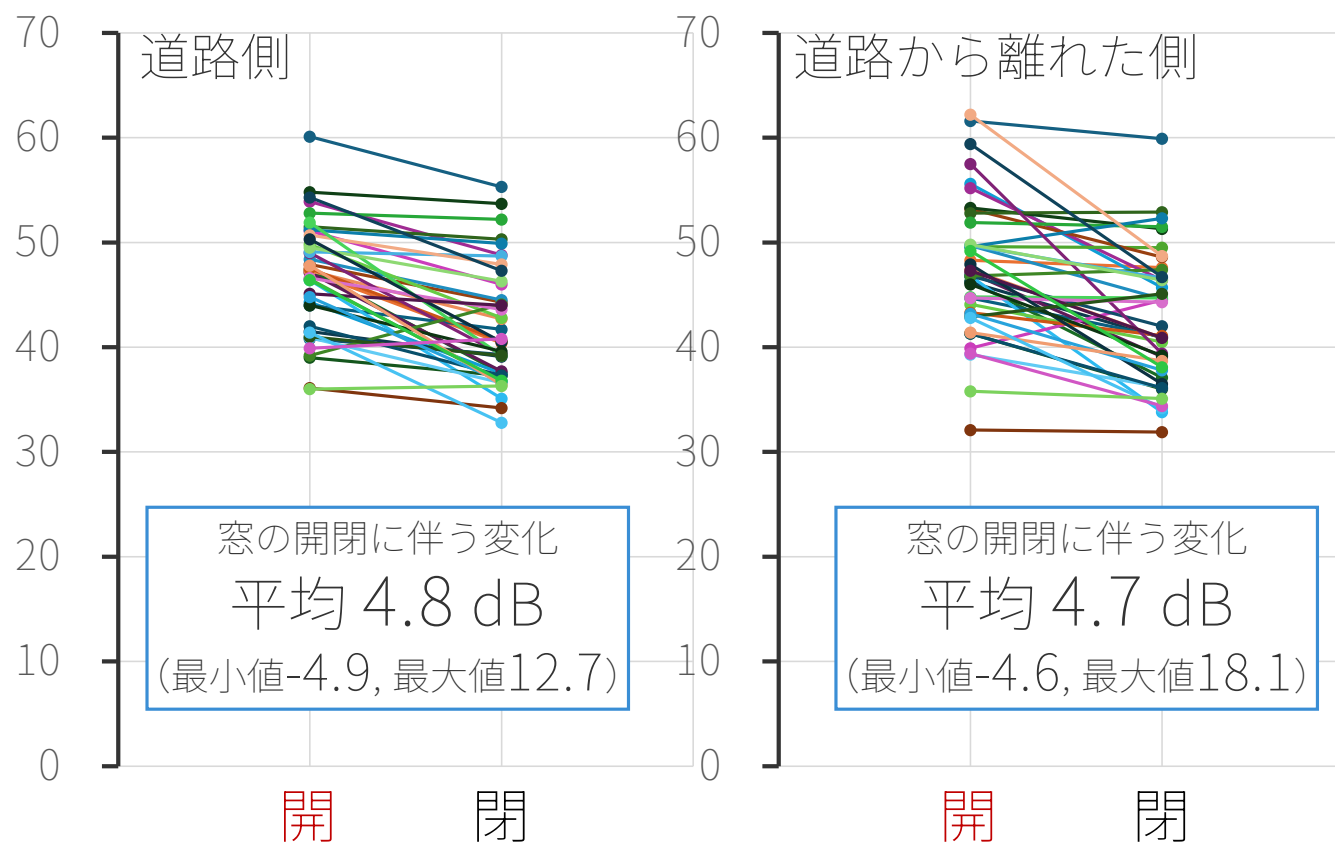


(a) リラックスボックス

(b) 小空間

図13 使用イメージ

令和5年度 騒音検査結果



基準値を超えた場合に

- 授業の相互の時間割の配慮
 特殊教室（午後に音を出す）
 低学年の教室（午後の授業が少ない）
- 教室の使用用途を変える
 音が出る教室を隣り合わせに集める
- 窓を閉じる
 校外の騒音には有効
 騒音対策と換気の両立

